

(畜産-飼料作物-品種)

(畜産-飼料-飼料作物)

課題名	145 低暖地草地の高位生産技術						分類	②			
	トールフェスクの品種特性と施肥量										
試験研究年次	62~1年(完了)										
I 目的 低暖地草地の主要な草種であるトールフェスク(TF)について越夏性の高い適品種を選定する。											
II 試験方法											
1 試験圃場	試験1(多肥栽培)			試験2(標肥栽培)							
	(1) 場内北5号 花崗岩残積土(砂壤土)			(2) 場内西1号 れき質褐色森林土(砂壤土)							
2 播種期	(1) 昭和61年10月16日			(2) 昭和63年11月1日							
3 播種量	(1) 3Kg/10a			(2) 3Kg/10a							
4 供試品種	(1) ケンタッキー31他5品種			(2) ケンタッキー31他4品種 及びテティラ(イタリアイグラス, IR)							
5 施肥量	試験1(多肥栽培)			試験2(標肥栽培) Kg/10a							
	基肥	1/28	4/8	6/15	8/4	計	基肥	2/20	4/14	5/29	計
N	7	7	7	7	3.5	31.5	7	5	5	5	22.0
P ₂ O ₅	7	0	0	0	0	7	7	0	0	0	7
K ₂ O	7	7	7	7	3.5	31.5	7	5	5	5	22.0
III 主要成果の概要											
市販及び国育成の6品種について比較検討を行った結果、ナンリョウとヤマナミが収量性、越夏性に優れており有望な品種である。											
1 多肥栽培において1番草はイタリアンライグラス(IR)との競合が見られ、トールフェスク(TF)はいずれの品種も生育が抑制された。しかし、2番草ではTFが優勢となり、3番草ではメヒシバが優勢となった。メヒシバに抑制された越夏後のTF4番草は、収量がなかった。											
2 標肥栽培において雑草の生育が抑えられたため、TFの越夏には有利となった平成2年4月の茎数はナンリョウが最も多く、次にヤマナミであった。生草収量ではヤマナミが、安定性ではナンリョウが優れていた。											
3 越夏性の向上には施肥量を控え目とするのが良いが、追肥と刈取りを組み合わせることにより年間を通した収量が期待できる。											

IV 主要成果の具体的データ

第1表 生草収量(多肥栽培) Kg/10a

	1番草(4/8)		2番草(6/15)		3番草(8/4)		4番草(10/1)		合計収量		63年5月 茎数/m ²
	TF	IR	TF	IR	TF	刈割	TF	刈割	TF	他	
ケンタッキー-31	510	3863	1670	1018	166	2227	0	2060	2346	9454	25
ヤマミ	902	3014	1720	728	335	1998	0	2093	2957	7833	43
ネリョウ	292	3278	2062	630	428	1899	0	1867	2782	7674	13
ナリョウ	961	3976	2148	310	420	1573	0	2230	3529	8089	38
サソクロ	729	3544	1750	490	335	2339	0	1913	2814	8286	9
フーン	777	3730	1873	642	353	2124	0	1980	3003	8476	20
平均	695	3567	1871	636	340	2027	0	2024	2905	8254	25

第2表 生草収量(標肥栽培) Kg/10a

	1番草(4/14)		2番草(5/29)		3番草(7/18)		4番草(10/18)		合計収量		2年4月 茎数/m ²
	TF	IR	TF	IR	TF	刈割	TF	刈割	TF	他	
ケンタッキー-31	106	815	476	1497	538	216	210	1443	1330	3971	1480
ヤマミ	161	293	744	799	752	267	309	1199	1966	2558	1974
ネリョウ	35	583	567	1353	760	437	204	1575	1566	4248	1425
ナリョウ	136	884	487	1433	569	250	371	1225	1563	3792	2905
フーン	118	915	383	1404	434	306	76	1501	1011	4126	1034
ティラ(※)	1674※	--	2257※	--	189※	606	0※	2110	4120※	2716	209
平均	111	698	531	1297	610	416	234	1389	1487	3739	1764

注)平均はティラ(※)を除く

V 成果の評価と取扱上の留意点

低暖地草地でのトールフェスク品種選択上の参考とする。

VI 今後の研究上の問題点

放牧条件下での永続性の検討が必要である。

VII 資料名